
NEWS RELEASE (2025 年 2 月 19 日) 取材依頼

国立大学法人鹿児島大学と独立行政法人国際協力機構（JICA）との

JICA 海外協力隊連携派遣覚書締結に係る署名式

鹿児島大学と JICA における海外協力隊連携派遣プログラムの締結

報道機関 各位

平素より本学の報道に関しては大変お世話になっております。次の JICA 海外協力隊連携派遣の覚書の署名式について取材方お願いいたします。

【趣旨等】2025 年から開始される JICA 海外協力隊の連携派遣に関し、JICA 九州と鹿児島大学の覚書の署名式を鹿児島大学農学部において対面で行う。

【日時】2025 年 3 月 10 日 13 時 10 分～13 時 50 分

【場所】鹿児島大学農・獣医共通棟3階中会議室

【対象】

【内容】

13:10-13:11 (1 分) 開会の辞

13:11-13:15 (4 分) 出席者紹介

13:15-13:20 (5 分) 挨拶(寺岡 行雄 学部長)

13:20-13:25 (5 分) 挨拶(後藤 光 JICA 九州センター所長)

13:25-13:29 (4 分) JICA 海外協力隊連携派遣に係る覚書の署名、写真撮影

13:29-13:30 (1 分) 閉会の辞

13:30-13:50 (20 分) メディア対応

JICA 海外協力隊連携派遣について

JICA 海外協力隊連携派遣とは、JICA と連携した海外ボランティア派遣に関心のある団体が、JICA との合意に基づき、その団体から推薦された人材を、JICA 海外協力隊として開発途上国へ派遣する制度です。派遣される隊員を通じ、開発途上国の課題解決に貢献するとともに、隊員の帰国後には、協力隊で得た経験を組織内や地域社会へ広く還元いただく事が期待されます。また、グローバル人材の育成手段として、また、各団体の海外での事業展開推進にもご活用いただけます。昨今では、日本で求められている外国人材の受け入れ、多文化共生、SDGs への対応などの、国内課題解決のためにも協力隊の経験は大変有益です。団体から連携派遣のご提案(活動内容、派遣規模、対象国など)を受け、JICA の方針等に合致し、かつ提案に沿った要請が対象国から提出された場合、提案団体と JICA の間で覚書を締結し、団体からの推薦者を協力隊として派遣いたします。(以上、JICA ホームページより)

■ JICA 海外協力隊「JICA 海外協力隊 連携派遣 ～概要～」,2025.2.14

(<https://www.jica.go.jp/volunteer/relevant/company/cooperation/index.html>)

鹿児島大学農学部は、開発途上国地域へ学生を派遣し、ボランティア活動を経験させることでその後のキャリアアップにつなげている。本事業では、5年間にわたって学生らをマダガスカル国立農村開発応用研究センター(FOFIFA)に派遣する。マダガスカルでは国民の約8割が農業分野に従事し、そのうち約9割が主食であるコメの生産に従事しているが、人口増加がコメ生産増加を上回っているため近年は輸入量が増加している。生産性を向上させるには、低収の原因と考えられている干ばつ、冠水、低肥沃土壌および栽培技術の不備等を改善する必要があり、FOFIFA は厳しい環境に耐えうる種子や栽培技術に関する研究を行っているが、研究員の技術、経験不足等の理由から国の目標を達成するまでには至っていない。このような状況から、研究者のスキルアップ、新たな稲作技術の導入、農家への支援を通してのコメの生産量増大に貢献する JICA 海外協力隊の派遣要請が FOFIFA より提出された。

【出席者】

【鹿児島大学】

寺岡 行雄(農学部長)

坂上 潤一(農学部 教授)

山下 憲一郎(農学部・共同獣医学部等事務部長)

【JICA】

後藤 光(JICA 九州センター 所長)

渡久地 舞(JICA 九州センター 職員)

仮屋 慶一(JICA 鹿児島デスク 国際協力推進員)

【問い合わせ先】

◆内容に関すること

鹿児島大学農学部農学科植物資源科学プログラム熱帯作物学研究室([TEL:099-285-8543](tel:099-285-8543))

E-mail:sakagami@agri.kagoshima-u.ac.jp(担当:坂上)

※ニュースリリースは鹿児島大学ホームページからもご確認できます。(解禁日以降に随時掲載)

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/pr-info.html>

【トップページ>大学紹介>広報>ニュースリリース・報道・広告】